



水仙とチャップリン

ぽかぽか陽気に誘われてか、小鳥が庭にやってくるようになった。活動的になった小さな虫でも啄んでいるのだろうか、右に左に忙しそうだ。そんな風景を眺めていると、昨日まで咲いていなかったはずの水仙の花がきれいに咲いていた。本当に春の訪れだ。

その姿があまりにも美しかったので携帯電話で水仙について調べてみたら、花言葉は「うぬぼれ」。ギリシャ神話に由来しているという。一人の美少年が、水面に映る自分の姿に恋をし、その場から動けなくなってしまう、そのまま命を落としてしまった。その場所に咲いていたのが水仙であった、という悲劇の物語がそれらしい。

考えてみると、人間はいにしえから現在に至るまで、「うぬぼれ」に陥りやすい生き物なのかもしれない。自分の意見を押し通す形で起きてしまった紛争

などはその最たる例ではないか。このような価値観や手法は20世紀に反省とともに捨ててきたと思っていたのだが、違うらしい。

今も恐怖におびえる人がいると思うとなんとも心が痛む。この愚かしい現実はどうにかならないものか。心地よい春の陽気に包まれながらも、くよくよと考えていると、チャップリンが映画「独裁者」の中で言った演説を思い出した。「賢さよりも、優しさ、思いやりが必要なのだ。そういう感性なしでは、世の中は暴力で満ち、全てが失われて

しまう」。そして彼は「絶望してはいけない」とも言った。本当にそうだと思う。

「うぬぼれ」を克服するのは容易ではない。しかし今必要なのは自分を愛すように他者を愛する心なのだろう。その心で世界を一つにしなければいけない時なのだ。きっとその小さな光がこの現状を打破すると、僕は信じることにした。水仙のもう一つの花言葉は「希望」だから。

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。41歳。